



ひとにやさしい エレベーター

大阪市立咲くやこの花中学校 3年生

さとう みひろ
佐藤 心優

調査地：西区（阪神ドーム駅前）

普段、何気なく使うであろうエレベーター。私は学校への通学途中に使うことが多い。重い荷物を持っていても階を簡単にまたぐことが出来るエレベーターは本当に有難い。だからレポートという機会を通して、改めて気づく工夫は無いかと興味を持った。今回は自宅の最寄り駅にあるエレベーターを調べた。そこにはやさしさが詰まっていた。

やさしさの一つ目は、ボタンの位置。車椅子に乗る人、高齢者、小さい子供にも手が届くように低い位置に設置してある（資料①）。私が小さかった頃、よく使っていたエレベーターには低い位置にボタンがなく、困ったことを思い出した。確かに、上記の人達にとって低い位置にボタンがあることはとても重要であると思う。

二つ目はエレベーター内にある手摺・鏡である（資料②、③）。これはおそらく視覚障がい者や車椅子に乗る人、高齢者の安全を考えての事だろう。安全を確保するために必要不可欠であると感じた。

三つ目は、エレベーターに乗った後、ボタンを押さなくても改札階からホーム階まで降りられること。「ドアが閉まりますと自動的に改札階へ参ります。」という音声案内が流れる。視覚障がい者が行うであろう「ボタンを探し、点字を読み、押す」という工程が省かれるのだ。これは視覚障がい者にとって低負担になると思う。また、ボタンを触らないため新型コロナウイルス感染症対策にもなる。今の時代にも対応しているエレベーターなのである。沢山の人のやさしい工夫だと

思った。

機能や内装だけでなく、外装にも工夫が施されていた。周りがガラス張りになっているのである（資料④）。何故だろうか。インターネットで調べてみた結果、その理由は大きく二つ。一つは見通しを良くして圧迫しない、開放感のあるエレベーターにするため。もう一つはエレベーター内を外部から見えるようにして防犯性を高める為だそう（URL）。確かに、込み合っている時も閉塞感を感じにくかった。また犯罪防止になるのは安心である。

このように駅に設置されているエレベーターには様々なやさしさがあった。それは高齢者や障がい者に限らず、全ての人が安心・安全に使うための工夫だった。これらのやさしさを知って、触れて、私に出来ることは何なのか考えた。それは「心配り」ではないかと私は思う。自分がエレベーターを降りる人の妨げになってはいないか。エレベーターでは必要な人が優先的に乗れているのか。少し気遣う必要がある。

「心配り」は何もエレベーターに限ったことではない。日常生活の全てにおいて当てはまることだと思う。

何かをしてあげるでは無く、精一杯の「心配りを」を。それが出来たら物・場所だけでなく「人」もまちのやさしさになれると思う。だから私は周りをよく見て、小さな心配りを見つけ、自分自身も心配りを忘れないようにする生活を送っていこうと思う。

資料①



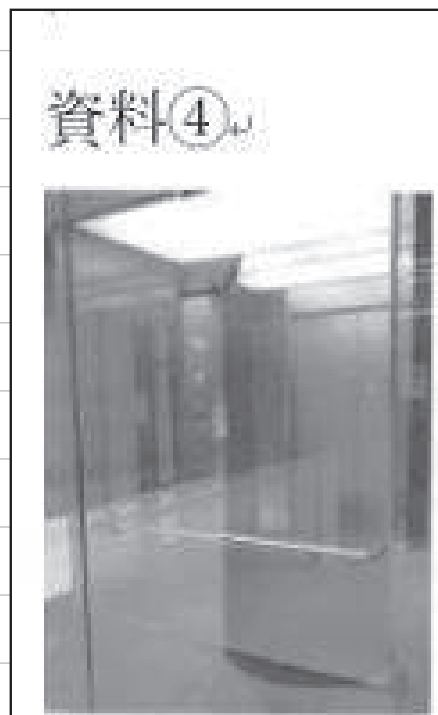
資料②



資料③



資料④





沢山のやさしさにつつまれて

大阪市立淀商業高等学校 1年生

井内 由樹
いうち ゆき

調査地：住之江区
Osaka Metro 四ツ橋線 玉出駅

私が、この「わがまちのやさしさ発見レポート」で調査した場所は、通学時に利用している地下鉄の玉出駅です。駅のことをもっと知りたいと思い、選ばせていただきました。私が駅員さんや駅係員さんに教えていただいた地下鉄のやさしさについて、レポートしたいと思います。

調べて一番驚いたことは、駅の階段の手すりに点字がついていることです。私は、普段階段を使う際に手すりを持つことがない為、今まで気づくことがありませんでした。手すりに点字がついていることにより、視覚障がい者の方は、安心して昇り降りすることが出来ます。

次に、駅係員さんが車椅子を利用している方を補助する場面を見学しました。補助する際に使うスロープの名前は、『ケアスロープ』と書いてありました。駅係員さんがスムーズに補助していたので、車椅子の方も安心して電車から降りていきました。相手が安心できる行動をとるのは、大事なことだと教えていただきました。また、スロープを使って乗降することによって、車いすの方が駅と電車の間ではさまる事故を防ぐことができます。

駅では視覚障がい者の方へのやさしさにも気づくことができました。駅によってはホー

ムドアがないため、視覚障がい者の方には可能な限り自分で歩いていただいて、駅員さんが見守るそうです。駅には、いくつかの箇所にセンサーがついています。例えばお手洗いだと入口の上にセンサーがあり、どちらが男性用か女性用かを、右か左で正確に教えてくれます。

最後に、駅員さんに質問したことをまとめます。私は、「なぜ駅の改札には幅の大きい改札と小さい改札があるのですか」と質問しました。駅員さんは「幅の大きい改札は車椅子の方やベビーカーを押している方が通りやすくする為にあるのだ」と教えていただきました。最近の車椅子は、昔に比べてサイズが大きくなっているため、小さい改札だと通りづらく大変だそうです。そのため、幅の大きい改札があることが分かりました。

以上の学習をもとに、バリアフリーについて考えてみて、感じたことがありました。それは、ただ補助をするのではなく、利用してくださる方に対して安心してもらうこと、また次も頼みたいと思われるように丁寧に接することが大切だということです。私も、困っている方を見かけたら人まかせにしないで優しく声をかけていきたいです。そうすることで、よりよい町になると思います。

